

## 第3回太子町地域公共交通検討委員会 会議概要

日 時：平成29年11月8日（水） 14時00分～16時00分

場 所：太子町役場4階 全員協議会室

### 議 題

- (1) 太子町の交通に関するアンケート結果の報告及び考察等について
- (2) その他

#### (1) 太子町の交通に関するアンケート結果の報告及び考察等について

(資料1に基づき、事務局より説明)

会 長 アンケートのサンプルがもっと数が多ければよかったのではないかと委員会の議論にもあったが、統計的には、このぐらいのサンプルの数で十分と思われた理由の説明をお願いしたい。

事務局 1000戸世帯を対象に、400件を超える回収率があった。当初の予定でもあった約350を超えていれば、データとしては有効であるというところからそれを超える回収率であるため、このサンプルについては十分に有効であり、活用できると考えている。

また、直接、バス利用者や観光客にヒアリング調査を計4回予定している。実施日が重なり、現在、3日ぐらいしかできていないが、あと1日行う予定。この3回でも160名程度の回答数があるため、この数字からすると、今回のヒアリング調査結果からも一定の方向性、課題に対する対応策が抽出されるのではないかと考えている。

会 長 それでは委員の皆様にはアンケート結果や考察について、お考えやご意見を願います。

委 員 コミバスを考える上では、路線バスを基本に考えることが必要。これから導入されるかはわからないが、路線とか区域とか運行時間等において、路線バスとの整合性を高めていく必要があると考える。

河内長野市では「くすまる」というものがあり、今年で6周年を迎えるが地域の方がとても盛り上げており、リーダーシップをとる方もいる。利用率は

平均7割を超えているとのこと。このことから、行政だけでなく役割分担を明確にして、地域が盛り上げることにより、太子町においてもよりよい交通手段がうまれるのではないかと考えている。

委員 現状では、バスの認知度は高いが利用者数は少ない。どういうふうにご利用させていくのかといった、しかけというものを考えていかなければならない。路線バスやコミュニティバスは、地域の方が主導となり支えていかなければ難しいのではないかと。行政が負担金を出すだけでなく、地域がどう負担していくべきかを考えていかなければならない。

委員 乗ってもらう工夫として、乗ってくれる人のターゲットを絞って考えることがある。例えば、自分で車を運転できないが、外出するには一緒に誰かと行動できない人は路線バスを使うなどがある。河内長野市では、同乗者の運賃を助成して減らし、高齢者の方とご家族と一緒に動くような習慣をつくることによって、若い方も一人でバスを利用している姿を見かけるので、誰にバスに乗ってもらうのかターゲットを絞っていけば良いのではないかと。また、1日乗車券を買うと買物券や喫茶店の利用券をつけるなど、バスに乗ることでの特典を付随したり、地域で工夫をしている。行政で支援するだけでは限界があるので、地域でも盛り上げて乗ってもらう仕組みづくりが必要であると思う。

委員 高齢になった方には運転免許の返納をお願いしているが、自主返納される場合、運転経歴証明書を希望される方がほとんどで返納する際には特典がついている。現在太子町では約9600名が免許を持っており、そのうち75歳以上が700人いる。高齢になるとどうしても運動能力が落ち、事故が増えるので、運転免許は返納してほしいことから、バス等の移動手段が充実することを望んでいます。

委員 住民の弱者支援ということで乗合ワゴンを運転しているが、要望として多いのが、「最寄の駅まで走らせてもらいたい」「予約しなくても乗れるようにしてほしい」「65歳以下でも乗れるようにしてほしい」である。予約ワゴンも今後のあり方を考えるべきであり、金剛バスと連携していきたい。

会長 乗り合いワゴンのアンケートの中で、予約することが手間だという意見がでていた。予約の仕方で何か改善できることはないか。

- 委員 当日の2時間前ぐらいまでと、その時に予約が空いていれば柔軟な対応ができるように心がけている。予約することが手間だとか、急に行けなくなれば悪いなどと思わず、気兼ねなくどんどん利用して予約してほしいと思う。
- 会長 現在は無料で行っているが、今後は有料で行うという声もでているがどうか。
- 委員 今後は有料という声もあるが、そうすると便利にすることが必要となるだろうし、その点は金剛バスと一緒に考えていくべきである。
- 委員 今回のアンケートについてはサンプルとしては、自分が思っていたよりかは少なかったように思う。予約ワゴンの認知度は少ない。対象者の約1割ほどしか登録されておらず、約3600人の中の65歳以上の対象の中で約430人ほどしか登録されていないのはとても少ないように思う。予約ワゴンの年齢撤廃、高齢者の方の移動手段としてだけでなく、地域コミュニティの移動手段として目的を変えて来年以降からは考えてもらいたい。
- 住民アンケートの中で、聖和台、磯長台については路線を増やしてほしい、便数を増やしてほしいという声が多くある。
- それから、金剛バスには終バスが早いとの意見があり、平日で22時、休日で20時なので、町民の交通手段として時間が遅くまで運転してもらえると利用したいという声もたくさんあるので、この点においても、金剛バスには改善してもらえるように勉強していただきたいと思う。あと、昼間の時間はバスがこないというところもあり、近鉄電車とのダイヤと連携した路線バスの時刻にしてほしいとの声もあるので、金剛バスは住民の声を聴いてダイヤの運行を考えてもらいたい。
- 地域のコミュニティバスは太子町全域で、土日も含めた運行をするのが地域交通のあり方でないか。
- 委員 車の免許を持っていない人に対して移動を考えていくことが大事。運転免許を持っている人は移動できるのだから大丈夫。この点もふまえて対象をもっと絞っていけないのではないかと思います。地域交通を考える際は、一人一人の移動ニーズについてしっかり把握して考えるべきであり、その上で計画を立ててもっと意見を出していくべきであると思う。路線バスの結果をコミバスの役割とどう分担していくか。路線バス事業者と地域との意思疎通が大切ではないか。
- 委員 山間部の不便地区の公共交通について、そこからの地域の方の意見を聞いて

路線を考えていくべき。河内長野市では、地域が主体的に送迎などを行うための移動手段を考えている。まず、不便地区など公共交通が必要というところの交通手段を検討すべき。

会 長 河内長野市では、タクシーを利用されるときも行政が負担しているのか。

委 員 はい。

会 長 大体、人口の中でどれぐらいの人が利用されているのか。

委 員 大体だが、くすまるを1日に100人以上が利用している状況。1日何便かを決めて運行しているが、地域の方が乗り合いワゴンを守っていくために、バスの回数券を売ってみたり、地域の方限定で運賃を無料にしたりするなどのイベントを盛り込んで行っている。多い時は130名ぐらい利用されており、土日関係なく運行しているので、休日になると利用者が減少するという事もない。

河南町では不便地区で乗合タクシーを運行しているが、慣れるまでは本当に乗る人数も少ない状況だったが、曜日によるが徐々に利用者は増えている。

委 員 金剛バスのほうでもいろんな意見があるので、アンケート結果をもとに今後の運行を考えていきたいと思う。

委 員 春日、太子、付近は重点的に走っているようだが、山田地区になると全然バスが走っていない。また、道幅も狭くバス停までの距離が遠いので軽自動車がないと行けない現状。路線バスだけでなくワゴンも走らせる必要があるのではないかと思う。

委 員 75%が免許をもっていて、残りの25%が移動手段がタクシーや乗り合いワゴンを利用している。超高齢化社会が進んでおり移動できない人もいる中で、朝晩は通勤で利用している人も多いけど、昼間時人が少ない時でもバスを走らせてくれている金剛バスには感謝している。路線バスは今のままとし、バスが走っていない所は他の方法を考える。全て一緒にはできないので、メリハリを作ってすみわけを考えるべき。

委 員 予約型乗合ワゴンは、行きは時間を決められるが、帰るときは時間が決まっていないので時間が決められないとの意見がある。高齢になって運転ができ

なくなってしまったときのことを考えると、路線バスの本数や停留所を増やしてってもらいたい。この間、永田、畑の付近の道路においては竹藪の竹がしなっており、車1台が通るのでやっとの状態だった。隅々まで考えていくなら、地域の事も考えていくべき。

身体の悪い人はバスを利用していない。みんなの意見を取り入れていくべきであり、路線バスは残していかなければいけないと思う。

委員

高齢者に必要なのは予約型乗合ワゴン。まだ試験段階であり年齢が65歳以上から利用できるということだが、実際は60歳ぐらいの方でも利用したいという声もあると思う。

何年たっても、検討中とのことではっきりしないので早急に対応してもらいたい。

予約をやすくしてほしい。高齢者にとっては、平日も休日も関係ないので土日でも運行してほしい。

委員

路線バスに乗らない理由は、車の送迎が多いから。金剛バスの利用者は今後減ってくるので、町も負担しないと。

副会長

予約型ワゴンは着手できるものは早めに手を付けていくべきだと思う。

昔、河南町では河南ピアまでの交通バスとして「やまなみバス」というものを走らせていた。最初は乗車する人が限定されていたが、年齢制限をなくし、降車場所も河南ピアだけに限定しないでどこにでも降車できるようにすると、初めに比べると利用者が増えた。太子町は予約型という形だが、このような事例もあるので、変えられるところは先に変えていったほうが良いのかなと思う。

金剛バスは民間なので、バスの大きさは任せておけばよいと思う。

早い時間や遅い時間に走らせるのであれば、乗車される方も覚悟すべきであると思う。例えば、夜間に運行してもらうのであれば、夜間にこれだけの人数の方が乗車されるということが見えてくれば、金剛バスのほうでも考え方を換えやすくなり、住民の方の声も形になりやすくなるので議論しやすいのではないかと思った。

人口が減少する中で、マイカーは増えている。色んな交通手段がある中でマイカーが選ばれるのは、自分に都合が良いからであり、マイカーに勝てるバスをつくるのは無理である。公共交通を走らせるには、住民も覚悟していく必要がある。

路線バスに対して町の負担を希望するというのは良い考えである。しかし、河南町の場合バス 2 台を購入しており、年間かかる経費は 2,650 万円のところ収入は 350 万程度で、2300 万円の赤字である。タクシーは 400 万円程度の赤字で、年間 2800 万円の赤字が出ている。公共交通に乗るのであればよいが、乗らないのであれば負担が増え、その負担は他のサービスに影響してくる。

みんなが乗れば公共交通は拡大するが、乗らなければ縮小するのは当然である。一定の規模がなければ運転は出来ない。この委員会では、単に走らせてほしいだけでなく費用も含めた議論をすべき。どうすれば負担を減らせることができるのかを考えていく。住民も覚悟を決めていくべき。そういう考えがあればうまくいく。

- 会 長 財政のこともあるので、目標に応じた案、できる案を考えていくべき。
- 委 員 次回素案ができるということであるが、どこまでの案がでるのか。路線、ダイヤなど具体的な計画がでるのか。
- 事務局 今回はこの地域にはこのような路線が必要であるといったような方向性を出していくことが目的であり、基本を固めないといけない。次年度の地域公共交通網形成計画の策定にあたっては具体的に考えていきたい。
- 委 員 マイカーのない人、移動できない人のニーズを把握しないといけない。
- 事務局 ニーズ把握については、今後設置予定の法定協議会で実施をする予定としている。
- 委 員 パブリックコメントは、パソコンだけでなく紙面でも実施してほしい。
- 事務局 パソコンだけでなく情報公開コーナー等で、紙面で計画を見てもらえるようにしている。
- 会 長 以上で会議を終了する。